



30th Anniversary  
純パの会30周年  
1982-2012

# Pure 純 No.160 Pacific パ Mar.2012

純パの会会報『純パ』第160号

2012年3月31日発行

発行：純パの会 〒193-0816 東京都八王子市大楽寺町155-10 吉田方  
TEL & FAX.042-652-1066

## 4冠達成を祈念

吉岡 徹也

新聞によると、オープン戦たけなわの3月8日、セ・リーグは臨時理事会を開き、パ・リーグに倣って今季「投手の予告先発制」を導入することを決めたそうである。ただしクライマックスシリーズ、日本シリーズは対象外とのこと。「今さらなぜ?」と思いつつ読み進んでみると、その理由は「セの観客動員数が2年連続で減少しており、人気投手等の登板を予め知らせるファンサービスで観客増に繋げたい」由。理事長を務めるドラゴンズの球団代表によれば「野球に詳しくない人に情報を提供し、(ファンとの)距離を近くしたい」ということである。クライマックスシリーズ等を対象外にしたことについては、理事会では「短期決戦では投手起用法がシーズン中と異なっており、采配に柔軟性を持たせるため」としている。この点はどうも解り難い。「采配の柔軟性はファンサービスより優先される」ということか? それにしても、日本シリーズはパ・リーグにも関連があること。「今回も対象としませんので、どうぞご了承ください。よろしく願います」であろう。相変わらずのセの優位性、著りを感じる。もともと、報道されない所でそんな挨拶がなされていたら別だが。

それはさて置き、私は前回の会報159号で「昨季のバの3冠達成(交流戦、オールスター・ゲームに勝ち越し。日本シリーズも制す)」について書いたが、実はもう1つの冠が欲しかった。これについても以前触れたことがあったのだが、それが「観客動員数」である。残念ながら昨季もセをひっくり返すことが出来なかった。バの約977万人に対してセは約1179万人で、まだ200万人余り劣っている。しかもパも僅かだが、前年より5万5千人程減っている。これについては、我がイーグルスがパでは最も少数であり責任を感じる。今季のバは、岩隈、ダルビッシュ、和田、杉内とい

った人気投手を失っている。昨季を上回る動員数を確保するには、特に序盤、これが多少のハンディキャップになるかも知れない。しかし、各チームが諦めない、手を抜かない壮絶な戦いを続けるなら、必ずや多くの観客が球場に吸い込まれていくに違いない。

話を前段に戻すが、セの臨時理事会の後ジャイアンツ(以下G)のオーナーが、昨年末にGの監督から予告先発制を直訴されたことを明らかにした上で、「パの先行事項を後追いすることは悪いことではない。ネガティブな意見もあるが、人気の底上げになると思う」と語ったそうである。

このたび、再びGの悪行が明らかになった。狙いを付けたアマチュア選手への金銭供与、新人選手との契約金の大幅増し。これらは、完全な申し合わせ事項(ルール違反)である。ルールを曲げ、札びらと甘言で選手をひっこ抜く。勝つ為には手段を選ばない。こんな金満ダーティー球団に新規ファンが集まるのであろうか。これまでのGファンでも離れていくはずである。正直申せば、かつてGファンであった私も、この体質に嫌気がさしてGを見限った一人である。セの他球団もGに対してもっと物を言って欲しい。「プロ野球はGの為だけにある」のではない。特にプロ野球選手を夢見る子どもたちに「健全な姿」を見せて貰いたいと願う。

この会報が手許に届く頃には、既にペナント・レースは開幕している。今季のバは、前号にも書いたが、和田、杉内、ホルトン、川崎を失ったホークス、ダルビッシュの去ったファイターズ、そして岩隈、山崎のいない我がイーグルスがどんな戦いをするのか、私は特に注目している。「大混パ」になって欲しい。何れにせよ、今年こそパが4冠を達成し、「実力のバ」「人気もパ」となることを心から願っている。